

資質・能力を育てる古典学習の開発 —「竹取物語」(中1)と「精査・解釈」「考えの形成、共有」—

佐藤 洋一* 有田 弘樹**

*教職実践講座

**愛知県安城市立安城西中学校

Development of Learning of Classic Japanese Literature Which Pupils Cultivate Attribute and Ability by —“Close Inspection and Interpretation” and “to Form and Share of Ideas” on ‘Takatori Monogatari’ (a First-year Student at Junior High School)—

Yoichi SATO* and Hiroki ARITA**

*Department of Practitioners in Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

**Anjo-nishi Junior High School, Anjo 446-0052, Japan

一 「資質・能力」育成と新学習指導要領

1 幼保・幼小中、中学高校(大学)の学び

資質・能力(コンピテンシー)育成に基軸を置く新学習指導要領(総則、幼稚園、小・中学校)が2017年3月告示され、6月21日には「解説」が公表された。合わせて「幼保連携型認定こども園・保育要領」(文科省・厚労省)も改訂、幼稚園は新たな意味での幼保連携・幼小連携を視野に2018年から全面実施、小・中学校は2018年4月から先行実施、小学校は2020年から中学校は2021年から全面実施となる。高等学校は2017年度に改訂・告示され、2019年から先行実施され2022年から年次進行で実施される。大学入試も約40年ぶりに資質・能力型に改革される見通しとなっている。

2 資質・能力育成の教育構想のはじまり…?

学問体系や「知的」財源を教育システム化する学習内容型(コンテンツベース)中心の教育から、2030年に必要とされる資質・能力型教育への移行(例、新たな価値創造や責任ある遂行と行動、持続可能性への関与と態度、非認知能力やレジリエンス等のスキルや汎用的資質・能力が基軸)が日本でも本格的に模索され始めた段階、一つの出発点とみることができる(注1)。

これ等の背景にはAI革命による「シンギュラリティ(技術的特異点)2045年問題」(日本・第四次産業革命)、「OECD新たな教育モデル2030」(2018年PISA調査の枠組みへの展開。注2)、第三期教育振興基本計画の策定(2017年)、「学び続ける教員像の具体化」を掲げ、今後の大学(大学院)・教育委員会等による教員養成・採用・研修の在り方に関わる新組織「教職員支援機構」

等の在り方(2016~7年)等、様々な動きがある。

二 「主体的・対話的で深い学び」等の構築

1 知識・技能(教科)、汎用性、倫理的洞察力・態度

新学習指導要領では資質・能力を育成するための「三つの柱」、1生きて働く「知識・技能」の習得、2未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」(活用)育成、3学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性(の涵養)」が提示された。

これ等は俯瞰的にいえば、非認知的スキル(レジリエンスや自己調節、協働性、やり抜く力等)や市民に不可欠な汎用的・社会的スキル(課題解決能力や情報リテラシー)、倫理的判断力・洞察力や態度(人間性)の形成等をも含んだ資質・能力論・次世代型教育論からの「主体的・対話的で深い学び」、質的に高い価値ある学びの再構築への視点、提言といえることができると考えられるだろう(注1~3)。

2 「主体的・対話的で深い学び」等の構築とは

まず前提として踏まえておくべき事項として、以下の事項がある(以下、下線部は佐藤による)。

第一に、「何を知っているか・何ができるようになるか」は個別の知識・技能、基礎的・基本的な「習得」の部分。自立・自律のための基盤であり「習得」「活用」「探究」を一貫して学びを支える主体性・意欲であること、「確かな習得」があつてこそ深い学び、質的に高い創造的な学びが構築されることは繰り返されている(注3)。第二に「知っていること・できることをどう使うか(「思考力・判断力・表現力等」)は確かな

「習得」や知識・技能の概念化（単なる理解や記憶ではなく学習全体の文脈や方法・評価論等の中での方略・リテラシーの一部）をもとに活用する力であり、ここには各教科の本質的な学びの意義（教科の深い魅力や価値、「見方・考え方」とそれを生かす汎用的スキルの二面性があることが重要である（注2）。

第三に、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（学びに向かう力や人間性の涵養等）は、特に批評的・創造的な生き方・価値観や感性の再構築、知識・技能の習得や活用レベルを超えた…深く質的に高い（創造的・批評的な）学びへの系統的な視点と評価観が重要となる。そのためパフォーマンス課題・評価、到達目標に合った妥当で本質的なルーブリック（評価基準）の開発と検証、提案が、今後は不可欠である。

三 国語科における改訂の方向性

1 「言葉による見方・考え方」と内容・領域構成

これまでの成果や課題を踏まえて、小中学校国語科の目標は「言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育成することであり、内容は「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」として示し、「学びに向かう力、人間性等」については「教科及び学年等の目標においてまとめて示すこととし、内容について示すことはしていない」とされている（菊池英慈氏、注3）。

「知識及び技能」の内容は、(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項（「話し言葉と書き言葉」「漢字」「語彙」「文や文章」「言葉遣い」「表現の技法」「音読、朗読」の七領域、新設）、(2) 情報の扱い方に関する事項（「情報と情報との関係」「情報の整理」の二領域、新設）、(3) 我が国の言語文化に関する事項（「伝統的な言語文化」「言葉の由来や変化」「書写」「読書」の四領域）、の三領域で構成されている。「思考力、判断力、表現力等」の内容は「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の三領域で構成されている（詳細は後述）。

「答申」においては、ただ活動するだけの学習にならないよう、活動を通じてどのような資質・能力を育成するのかを示すため、現行の学習指導要領に示されている学習過程を改めて整理している。この整理を踏まえ、「思考力、判断力、表現力等」の各領域において、学習過程を一層明確化するとともに、各学習過程で育成を目指す資質・能力が明確になるよう内容の改善を図った（注3）。

つまり、求められる「資質・能力」育成のための学習活動（言語活動）の設定と焦点化、学習過程＝単元構想や学びの過程の明確化（何をどう学び、できるようになるか、メタ認知化できるか）とのことである。

さらに菊池氏は全ての領域で「自分の考えの形成（表現）する学習過程を重視」（話す・聞く、書きまとめる、読む）するため「考えの形成」に関する事項を新たに

位置づけたことを授業改善のポイントの一つとして強調されている。これは「思考力、判断力、表現力等」の三領域「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」で、以下のような観点として示されている（概要を示した。※は佐藤によるコメント及び考察）。

「A話すこと・聞くこと」

- 話題の設定、情報の収集、内容の検討（話す聞く、話し合うことに共通する指導事項）
- 構成の検討、考えの形成（話すこと）
- 表現、共有（話すこと）
- 構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）※ここでの精査・解釈とは？
- 話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）※考えの深化や再構築、新たな学びへ？

「B書くこと」

- 題材の設定、情報の収集、内容の検討
- 構成の検討 ※書く構成やテキスト形式への視点？妥当性や本質性の評価規準・基準？
- 考えの形成、記述 ※論理的に、批評的・創造的？
- 推敲 ○共有

「C読むこと」

- 構造と内容の把握（※文章を叙述を基に捉える学習過程、説明的文章と文学的文章の2系列）
- 精査・解釈
 - ※1 文章の中の複数の情報を結び付けたり文章に書かれていないことを想像したり解釈する学習過程。説明的文章と文学的文章の二系列。
 - ※2 「文章の内容や形式について着目して読む（特に、ウは文章の形式に関する精査・解釈）」「目的に応じて必要な情報を見つける」「書かれていないことを想像する」。
- 考えの形成 ※読むことの「考えの形成」とは…レポート・論文、鑑賞・批評、随筆や評論？評価？
- 共有

2 資質・能力と言語能力ーテキスト、情報・形式ー

「言葉をメタ認知しながら言葉の働きや役割の理解」させること（言葉の多層的・多面的な学習とメタ認知）、「創造的（批評的）・論理的思考」を高めるため「情報・テキストを多面的・多角的に精査・解釈し構造化する力」（情報・テキストリテラシー）、自分の感情をコントロールすることにつながる「感情や想像を言葉にする力」（非認知スキルと感性、言語能力）、他者と協働的につながる力（言葉を通じて伝え合う）等の力のバランスよく育成することが重視されている。

さらに、「考えを形成し深める（価値ある深化、再構築）」させるために、「情報を編集・操作する力」（考え・解釈の形成と深化、情報やテキストの編集・評価）、「新しい情報を、既に持っている知識や経験、感情に統合し構造化する力」（学びの更新、再構築、その価値や意義も問われる）、「新しい問いや仮説を立てる等、既にもっている考えの構造を転換する力」等（新たな課

題や問い、価値の創造、学びの過程改善)…。国語科の役割は、改めて全教科や教育課程の「要」「中核の教科」としての意味付けがなされ(「総則」他)、言語能力、テキスト(情報)、学習過程、メタ認知、新たな価値の創造(論理的で創造的な思考力・判断力・表現力)等が重視されていることは重要である。

「言語能力を構成する資質・能力が働く過程(資質・能力を育てるために学習過程重視、そのための内容改善)」、「テキスト(情報)を理解するための力」の項目では「形式と内容」に着目して読み取る、「構造と内容を把握」「精査・解釈」「考えを形成(深化)」「共有」、アウトプットとしての表現については「テーマ・内容」「構成・表現形式」(構成の検討)を検討し「考えの形成・深化」すること、「より良い表現」の推敲・発話の調整力、学びの過程改善等も新たに強調されている。

四 教科を学ぶ本質的意義と「見方・考え方」

1 本質的な問い、と学習過程論

学習過程を構想し、子どもたちの主体性・能動性を引き出すためには、学習で「何を学ぶか」の見直しと明確化が「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」とともに重要であり、新時代に必要となる資質・能力を踏まえた「教科・科目等の新設や目標・内容の見直し(各教科等で育てる資質・能力を明確化して、目標や内容を構造的に示す)」がなされた。

「教科を学ぶ意義の明確化」として語られ教科の「見方・考え方」は「教科等ごとに特質があり、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの(教科ごとの特質に応じた物事を捉える視点や考え方)として、教科等と社会をつなぐもの」(「各教科等の特質に応じた『見方・考え方』」)と述べられている。さらに「言語による見方・考え方」については「自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること」と記載された(「別紙1ー各教科等の特質に応じた見方・考え方のイメージ」)。

2 「主体的・対話的で深い学び」の形成に四要素が

子どもたちにとっての「主体的・対話的で深い学び」の形成には、まず四つの要素が必要となる。第一は教員における教科を学ぶ本質的意義と「見方・考え方」の明確化、つまり扱う教材や作品研究における「本質的な問い」、深い意義の理解や共感能力の質が問われる。小説や随筆・詩歌、報告・記録、評論・鑑賞・批評、古文や漢文、漢詩等を学ぶ国語科としての本質的意義は何か。第二にそれ等を子どもたちの発達段階や関心・意欲、学びのリテラシー段階、学習時期等を考慮し何を、どこを、どのように、どこまで焦点化するか。つまり、単元の目的と評価規準(基準)、構想や時間数、言語活動等のカリキュラム・マネジメント等である。

第三に、国語科で学ぶ本質的な意義を、教科を超えて、価値ある「汎用的スキル」にどうリンクさせるか。何をどのような視点から、どの教科や領域とどうつなげるのか、つながるのか、その価値や意義は…という観点である(例、国語科伝記教材の学習から「道徳」「社会科」学習へ、鑑賞・評論文の学習から美術・社会・理科学習、課題発見・探究学習へ、等)。

第四には、到達目標と評価に関わる点で。特に活用・探究に関わる「深い学び」、いわゆる質的に高度で多面的・多様な幅を持つ学びをどのようなパフォーマンス課題と基準(ルーブリック)でどう評価するのかである。

五 「深い学び」を支え創るテキスト形式

小中・高校国語科で扱う教材には近現代小説や詩歌、民話・伝承、古文・漢文・漢詩、評論・鑑賞・批評、科学読み物やエッセイ(随筆)、伝記・自伝(評伝)、記録・報告・報道、新聞、コマーシャル、伝統芸術や文化(狂言・落語)等の多様な表現ジャンル・テキストがある。高校国語科ではこれらの学習の延長線上にさらに「論理国語」「文学国語」、外国語科では「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「数理探究」「地理探究」等新科目が設置されるとのことである。ともに教科の本質的意義を踏まえ、創造的思考力や表現力、洞察力等の資質・能力育成に関わる系統性をみることが出来る。

小中・高校国語科では、一貫して「思考力・判断力・表現力等」「創造的・論理的」言語力を高めるために、「構成・表現形式の考察・評価」「考えの形成(深化)」が重視されている。特に「構成・表現テキスト形式の考察・評価」は多様なテキスト(ジャンル)の構成・表現形式の評価(判断)、活用、メタ認知能力育成等のことであり、論理的で批評的・創造的な言語力育成にも深く関わる。目的・役割・機能に応じた様々な文章形式・テキスト(内容と形式、方法と価値等)を読み解き批評・評価する力、より効果的に説得力をもって書き表現・伝達、分析・評価していく力である(注4)。

さらに、「構成・表現形式を評価する力」「考えを形成し深める力」の重視は、授業場面で「思考力・判断力・表現力等」の中でも「表現力」の質的価値、深さや本質性、評価観等が問われることになる。「判断力(洞察力)」の在り方と結びついたパフォーマンス課題(評価)、その指導・評価観、ルーブリックの在り方、妥当性等も問われてくる。例えば、論述・プレゼンテーションや質疑応答、討論や議論を深める力・評価する力、仲間と効果的に協働する力、新たな価値の創造や提案性、実践と参画等をどのような基準(ルーブリック)で何を、どう評価し子どもたちにどう返すのか。これ等は学習過程の構造化、カリキュラム・マネジメントにも直接かかわってくる点である(注4)。

六 「我が国の言語文化」と古典学習

—「竹取物語」を学ぶ意義と「見方・考え方」—

「竹取物語」（伝統的な言語文化、教材化論）のテキスト形式論を踏まえた実践的な授業研究論については「まとめにかえて」に記載した拙稿等を前提としている。重複を避け、本稿の趣旨から学習モデル提案を行う。特に「読むこと」における〔思考力、判断力、表現力等〕の授業構想と評価の新しい枠組み（論点）として「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成」「共有」（言語活動例）が示されている点に着目した。

1 学習指導案

「時代を超えたつながり（古典学習）」

—「竹取物語」を楽しく深く学び合う授業—

第1学年 国語科学習指導案（授業者 有田弘樹）

平成29年6月15日（木）第5校時

2 単元の目標（概略のみ示す）

- (1) 古文を読み考えることの魅力と方法を学ぶ
（「見方・考え方」「伝統的な言語文化」の魅力）
- (2) 「竹取物語」のメッセージ・特徴と戦略を学ぶ
（時代の価値観と構成・語り、人物像の設定と変化、象徴性等「構造と内容の把握」）
- (3) いくつかの観点から「竹取物語」の価値や普遍性、現代人への批評性を捉え、考えや解釈を提案する
（「精査・解釈」「考えの形成」「言葉の由来と変化」等）
- (4) 「竹取物語」の学習を通して日本人の発想や感受性、言葉の価値（見方・考え方）等を学ぶ
（「共有」「考えの深化」「再構築・メタ認知化」）

3 単元の構想（概略、一部）

(1) 生徒たちになじみにくい？「伝統的な言語文化」
伝統的な言語文化は「創造と継承を繰り返しながら形成されてきた」「我が国の言語文化を継承し、新たな創造へとつなげていく」（『学習指導要領』他）。国語科で伝統的な言語文化を取り扱うことは、生徒たちの言葉の力を高め「日本人としての見方や考え方」を深めることにつながる。日本人としてたくましく生き抜く、豊かな人生を創るためにも重要なことである。

古文学習・事前アンケートからは「昔のことがわかるから楽しい」との一方、ほとんどが「よくわからない言葉が出てくるから苦手だ」「昔の言葉や文章を覚えても何につながるのか」「何で古文を勉強するのか」「何を学ばばよいのかわからない」等、古文を学習する意義や魅力に気づけていないことがわかる。

(2) 「竹取物語」と私達の生き方（真の幸福とは？）

授業では教科書教材「蓬萊の玉の枝—『竹取物語』から—」を取り扱う（光村図書版）。「竹取物語」（作者不詳）は約1300年前に成立した日本最古の平安王朝文学の一つ、昔話・絵本「かぐや姫」として中学生には比較的なじみ深い。「竹取物語」に描かれる人物像や表現・描写、自然・風景等の意義（構造等の精査・解釈）。日本人特有の見方・考え方、発想や価値観等を考

えられるようになってほしい（考えの形成）。

友達との学び合い（共有）で新たな価値や視点等に気づき、より質の高い説得力をもった「考え・解釈」をもつ方法を身につけてほしい。学んだことを今後の学びや豊かな読書生活、自分らしい生き方の探究、より本質的で深い見方や感じ方・考え方に結びつけられるようになってほしい（学びの再構築・メタ認知化）。

(3) 授業展開の工夫—五つの視点（概要）—

①「確かな習得」から豊かな探究へ（学習過程論）

【導入】課題をつかむ【活用①】考えをもつ【活用②】学び合いで考えを深める【習得】課題解決を通して知識・技能を確かにする【振り返り】新たな気づきや課題をもつという学習過程の設定。これまでの学びと関連づけて考えを形成したり、友達との関わりで深めるポイントに気づけたりするようにした。

②古文の本質的な魅力と「問い（クイズ）」の開発

「平安時代、姫君・女性にとってふさわしい結婚年齢」「古語“見る”“会う”“うつくしい”等の意味（古今異義語、言葉の由来と変化）」「かぐや姫の名づけの理由」等、歴史と文化的背景からの古語・美意識や貴族の一生等がもつ意味の理解、現代との文化・価値観の違い（見方や考え方・感じ方）を楽しみ言葉のもつ歴史的・文化的意義を学べる契機とした。

③「テキスト形式」を活かした学習課題の設定

「五人の貴公子の失敗談で何を伝えようとしたのか」「なぜかぐや姫は帝に“不老不死の薬”を手渡したか」等、人物像や表現の効果を問う学習課題を設定する。生徒たちは構成・表現の解釈をしつつ、古文の魅力と戦略等の価値に気づけるようになった。「他の貴公子の失敗談」「帝の失敗談」「かぐや姫の昇天」等、教科書では省略されている章段を配布し（補助資料・原文と現代語訳）友達と交流して課題解決させた。

④生徒たちの気づきや発見、視点を深める教師支援

グループ・学級全体で学び合う過程（共有）では、表現等の効果に着目させる補助発問を行う。人物像の変化と解釈、特徴的な表現の工夫等を理解させるため、時代の常識的な価値観・美意識や背景等と関連づけて解釈できている生徒を意図的・段階的に指名する。新たな視点や表現の効果、価値に気づき、多面的・多角的な解釈、質的に高い考えを形成することができた。

⑤学びの見通し・メタ化「振り返りシート」の活用

自由に記述できる学習シートを開発（資料2～10を参照）。生徒たちは見方・考え方の変化・変容を自覚したり、新たな気づきや課題意識を次時につなげたりしながら主体的に学び続けようとしていた。単元全体の学びを通して、学習内容と方法、共有等を振り返る場を設定することで、これからの自分の生き方や見方・考え方にまで視野を広げることができてきた。

4 単元構想（次頁、資料1を参照）

確かで創造的な学びを創る「学習シート」の開発（資料2～10を参照）

資料1 「竹取物語」における習得から活用・探究までの学習指導過程（11時間完了）

段階	時	生徒の活動	教師の支援
習得型学習①	1	1 初発の感想をまとめよう ①昔の人たちは“月”をどう捉えていたのかな？ ②どうして古文を勉強するのかな？ ③「竹取物語」で、どんなことを学びたい？	◎古文の学び方を理解して、物語の基礎的な観点に沿って初発の感想がまとめられる。 ○『かぐや姫の物語』（高畑勲）のDVDを視聴させることで、興味・関心をもてるようにする。
	2	2 初発の感想から学習課題をつくろう ①これまでの物語の学び方が使えそうだな。 ②「かぐや姫」と同じところは？違うところは？ ③「竹取物語」の魅力をみんなに伝えたいな。	◎自分たちの興味・関心、課題意識をいかして学習課題を設定し、学習の見通しがもてる。 ○人物、出来事、象徴性を取り上げることで、物語の学び方がいかにすることに気づかせる。
習得型学習②	3	3 昔話の構成を知って、全体像をまとめよう ①昔話にも型があるんだ。エピソードが面白いな。 ②どうして、五人の貴公子や帝のエピソードがあるのかな？何か伝えたいことがありそうだな。	◎「竹取物語」のストーリー展開（構成）を理解し、昔話版と原版との違いに気づける。 ○「かぐや姫」（昔話・資料）と「竹取物語」を比べながら読ませることで、「帝」の有無に気づけるようにする。
	4	4 なぜ、「五人の貴公子」を登場させたのだろう？ ①どうして“五人”の貴公子なんだろう？何か特徴がありそうだな。 ②五人の貴公子・帝の失敗談を描いたことで、どんなことを伝えたいのかな？	◎対比人物の役割・効果（貴族社会の階級制、人物造型）について、自分の考えがもてる。 ○別の貴公子のエピソード（資料）を配付する。 ○登場の順番や失敗談で終わることの意味を問うことで、貴族社会の階級制度や策略パターン（人物造型）が当時の社会体制や人間の欲望への批評につながっていることに気づかせる。
	5	5 なぜ、かぐや姫は帝に“不老不死の薬”を渡したのだろう？ ①昔話「かぐや姫」と「竹取物語」の違いは？ ②どうして、かぐや姫は帝に“不老不死の薬”を渡したのかな？ ③帝の存在を描いたことで、どんなことを伝えたいのかな？	◎帝を登場させた効果について、自分の考えがもてる。 ○帝のエピソード（資料）を配付することで、かぐや姫が帝の心＝心から愛することの喜びと哀しみ（人間の真の生き方）に気づけるようになったことに気づけるようにする。 ○五人の貴公子と帝の考え＝心の違いに着目させることで、帝を登場させたねらいについて考えをもてるようにする。
	6	6 かぐや姫を通して、作者がこの物語の中に隠した秘密のメッセージは何だろう？ ①“月の世界”はどんなところだと思われていたのかな？ ②どうして、中心人物が「かぐや姫」だったのかな？作者がこの物語に隠したメッセージは何だろう？	◎人物像や出来事の変化を通して、「竹取物語」のメッセージについて考えがもてる。 ○当時の人たちがもつ“月”のイメージ（常識的価値観）と関連づけることで、自分の考えをより深められるようにする。
活用型学習①	7	7 「竹取物語」の魅力をみんなに語ろう ①「竹取物語」の魅力を、みんなに伝えたいな。 ②自分が感じた魅力をいきいきと語るには、文章に書いておいた方がいいな。 ③どうすれば、みんなを納得させられるかな？	◎「竹取物語」の内容や構成・表現形式、文化的・歴史的価値にもとづいて、魅力や価値を構想メモにまとめることができる。 ○インターネットの情報を活用させることで、テキスト内容・形式と文化的・歴史的価値と結びつけながら考えをもてるようにする。
	8	8 「これが『竹取物語』の魅力だ！」（読書レポート）を論理的にまとめよう ①説明文の文章構成を使うと、文章が書きやすくなるな。 ②文章が長くなると、伝えたいことがわかりづらくなるな。	◎自分の興味関心、課題意識等から「竹取物語」がもつ魅力や価値を創造し、論理的にまとめることができる。 ○論理的文章構成の型をいかして表現させることで、自分なりの魅力や価値を創造的・論理的に思考・判断・表現できるようにする。
活用型学習②	9	9 友達の読書レポートから学ぼう ①友達が考えた魅力は何だろう？ ②自分の考えた魅力と比べてみると、こんなところも再発見できそうよ。	◎新たな魅力や価値、着眼点、優れた表現の方法等気づき、過去から現代につながる視点（内容の魅力、テキスト形式の魅力、見方・考え方の魅力）をもつことができる。 ○新たな魅力や価値を創造できている生徒を意図的に指名することで、より深い見方や考え方（課題意識）をもてるようにする。
	10	10 友達の読書レポートを読み合おう ①自分の考えた魅力とは違うけれど、新しい見方や考え方をしているな。 ②友達の書き方は、わかりやすく納得できる。どんなことを意識して書いたのかな？	◎前時の気づきの観点をいかして、着眼点、分析・解釈の方法、優れた表現方法の多様性に気づき、課題意識をより高められる。
振り返り	11	11 古文で学んだことを振り返ろう ①もっともっと古文を読んでみたいな。 ②当時の人たちの考え方が現代の自分たちの考え方にもつながっているんだ。	◎古文（国語）を学ぶことの知的な楽しさや魅力を実感し、今後の学びの意欲や自己の生活経験、生き方・価値観等の再構築につながる視点に気づくことができる。

- 1 古典学習を通して身につけた言語能力や学びの汎用性（汎用のスキル）に気づかせるためのシートである。
- 2 学習の見通しや古典学習の学び方を自覚させるだけでなく、自己の生き方や価値観・感性の形成、新たな課題発見・解決につなげさせることも可能である。
- 3 到達目標を確認できるようにすることで古典を学ぶ目的や意義を共有、振り返りを記述させることで子ども自身が学びの変化・変容を自覚し、主体的・意欲的に学べるようにする。

- 1 興味・関心をもったところ、疑問に感じたところ、大事だと思ったところ、魅力的な人物・象徴的イメージ等、物語を読み解くための基礎的な観点に沿って記述させ、課題意識をもたせるためのシートである。
- 2 記述させた後、「竹取物語」の学習で学びたいことや考えてみたいことを交流することで子ども個々の課題意識を共有・焦点化する。
- 3 子どもが主体的に学習に取り組んでいけるよう、学習の見通しを立てることも可能である。

- 1 語りや描写を基にしつつ登場人物の設定や相互関係を捉えたり、場面の構成・展開の仕方や大体の内容を捉えたりする等、「構造と内容の把握」のためのシートである。
- 2 出来事の変化を通してメッセージを伝ええるといった昔話特有の場面展開・構成の型（文章の構成や展開の仕方）を捉えられるようにする。
- 3 空欄に本文のキーワードを記入させることで、短時間でシンプルに内容の大体を捉えられるようにする。

振り通りシート

「竹取物語」―時代を超えたつながり―

作者不詳

年

組

番

氏名

授業で学んだことを自己評価しよう (◎・○・△・□・×) わかった」「さした」「考えた」「をまとめよう

知識・技能を「習得」する		古文を自分なりに楽しく読む学習	
①	②	③	④
「竹取物語」のあらすじをまとめ、書写版と古文版との違いについて考えをもちとができた。	「五人の貴公子」対比人物の出来事を誰いた作者のねらい・メッセージを考えることができた。	「常」対比人物の出来事を誰いた作者のねらい・メッセージを考えることができた。	自分なりに「竹取物語」の魅力を考え、構想メモにまとめることができた。
①	②	③	④
「竹取物語」の魅力を伝え合うことを通じて、自分の見方・考えをげたり深めたりできた。	⑤	⑥	⑦
①	②	③	④

遠藤 五の枝「竹取物語」から

作者不詳

一年 組 番 氏名

課題 学習目標をつくるために、初稿の感想をせよ。

☆こんなところを面白く書きましょー！

☆小説を正しく自分で読んで読みたいのよー！

① 主人公は誰か？ その性格は？

② どんな状況で、その状況は？

③ 中心人物は？ 何がどう変わった？

④ その他の人物は？ 何がどう変わった？

⑤ 人物の行動や動き、意識の推移は？

⑥ 出てくるものの意味は？

⑦ どんなメッセージが？

⑧ 主人公は何人？ 舞台は？

⑨ 主人公は？ 大敵は？

⑩ 他人は？ 何がどう変わった？

⑪ 出てくる人物は？ なんでも書いちゃって

⑫ 人物の行動や動き、意識の推移は？

⑬ 出てくるものの意味は？

⑭ 出てくるものや出来事からどんなメッセージが？

① おもしろい！ (興味・関心) と思った場面はどこですか？ そう思った理由を書きましょー。

② 覚えてみたい！ (益得) と思った場面はどこですか？ そう思った理由を書きましょー。

③ 「これが大事だ！」と思った場面はどこですか？ そう思った理由も書きましょー。

④ 描画 場面 場面

⑤ 気がなった人物やものは何ですか？ その人物名やもの、そう思った理由を書きましょー。

⑥ 気になった描写(人物、もの)

⑦ 空文「竹取物語」を読んで、思ったこと考えたこと(感想)を書きましょー。

学園シナリオ 読者の玉の核「竹取物語」から 作者不詳

一年

組

番

氏名

2
対人物

設定を正しく取り扱う？

1
中心人物

○初めのかみきとだれかという……… ※なぜ、こんな間が「ワラレタ」

2
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

3
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

4
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

5
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

6
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

7
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

8
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

9
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

10
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

11
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

12
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

13
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

14
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

15
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

16
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

17
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

18
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

19
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

20
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

21
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

22
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

23
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

24
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

25
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

26
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

27
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

28
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

29
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

30
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

31
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

32
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

33
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

34
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

35
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

36
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

37
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

38
対人物

○かぐや姫の正体は？ () の部の人この世の世ではなかった

資料5

「五人の貴公子」（対比人物）のエピソードを読み取り、言動の意味や考え方（内容）、人物設定の効果（構成・表現形式）について考えをまとめるための学習シート

- 1 五人の貴公子の言動の意味や考え
方(内容)、「五人」に設定・登場させ
た意図や効果(構成・表現形式)に
ついて「精査・解釈」し、「考えの形
成」のためのシートである。
- 2 貴公子が登場する順序やすべてが
失敗談で終わっていることの意味を
問うことで、貴族社会の階級制度や
策略パターンが当時の社会体制批判、
人間が普遍的にもつ欲望への批評性
等に気づかせることができる。

1	人物	位	課贖(品物)	対 equal の仕方	失敗の仕方	性格
五人の貴公子のミニロードをまとめよう！ どんなミニに気づけますか？ 2つくらい見つけてみよう！	石作の皇子	皇子	仏の御衣の鉢 みけのへら	①インドを探しに行くといっ て() (きつく) ②大和国から() の鉢を持ってくる。 ③皇室()の王族談話を語 る。	①鉢が光り輝いていないこと から()がばれる。 ②言い訳を造って、さらに底に 隠し鉢を置く。 ③玉作りに参加した匠たちが 押し寄せてき() がばれる。 ④山の中にこもつてに死す。	貧乏・賢くない
くらもちの皇子	皇子		蓬葉の玉の杖 ほうえのたまのづえ	①匠たちが()の 玉の杖を作らした。 ②皇室()の王族談話を語 る。	①かぐや姫に、偽りに使し てと云われる。あつという間 に燃えてしまふ。 ②いよいよ取りこぼして死す。	金もち・賢い
阿倍の御主人	右大臣		火鼠の皮衣 かむねのかわふ	①頼まれで困った中国の商 人は()物を使うする。 ②に()物と知らず、商人か ら大金を買った。	①かぐや姫に、偽りに使し てと云われる。あつという間 に燃えてしまふ。 ②いよいよ取りこぼして死す。	金もち・正直者
大伴の御行	大納言		竜の首の五色の玉 りゅうのくびのいそごのたま	①家来の忠告を聞き入れず、 馬の力で竜を倒そうとするが 崖にめって遭難する。	①竜の怒りを買ったのだとこ ろから話を聞いてしまふ。 ②阿倍に、結局()うは ななくてはならない。	武力・頑固
石上の隠座	中納言		燕の子安貝 つばめの子あひ	①家来の忠告を聞き入れて、 早く木舟を作戦を実行し、 ②木舟が()こに上つ て子安貝を取ろうとする。	①勝手にした瞬間、はしこが 落ちると、手にしたものは 燕のふんだった。 ②死んでしまった。	秘和・謙虚
貴公子の出来事(失敗態を通して、作者がこの物語の中に隠した秘密のメッセージは何だろう？)	貴公子たちの行動も考え方を通して、当時の人たはど変えなかつたことには、自分たちがど変えなかつたこと					

学年(シフト) _____

蓬萊の玉の核―竹股物語―から

作者不詳

一年 _____ 組 _____ 番 氏名 _____

27774 せせ、五人の貴公子を登場させたのだろうか？

資料6

「帝」（対比人物）のエピソードを読み取り、帝に不死の薬が渡された行動の意味（内容）、人物設定の効果（構成・表現形式）について考えをまとめるための学習シート

- 1 不死の葉が帝に渡された行動の意味（内容）、帝＝最高権力者を設定・登場させた意図や効果（構成・表現形式）について「精査・解釈」し、「考えの形成」のためのシートである。
- 2 帝＝当時の最高権力者というイメージをもたせるため、時代的な常識的価値観を取り扱うと効果的である。
- 3 貴公子と帝の言動や考え方を対比的かつ論理的に読み取らせることで、優れた教養をもつ帝の存在価値に気づき考えをもてるようにする。

[illegible]

学年シート④

蓬萊の玉の枝「竹取物語」から

作者不詳

一年 組 番 氏名

竹取物語 クラス

資料7

「かぐや姫」(中心人物)の役割や設定の効果、メッセージについて考えをまとめるための学習シート

- 1 かぐや姫が設定された意味を時代的な常識的価値観や出来事との関連から「精査・解釈」させた後、かぐや姫を通して伝えたいことについて考えを形成するためのシートである。
- 2 男性中心の貴族社会の中で、かぐや姫（女性）が中心人物として設定されていること、感情も欲望もない不死の世界の人物として設定されていること等に注目させる、考えを形成させるためのステップとなる。

(1) かぐや姫は、どこを見つけた？

竹取物語「クハズ」

どうして、「かぐや姫」と名付けられたのか？

① 家賃を作るのが上手で、おひけて給侍は裕福になつたから。
光り輝くように美しくなつたから。(2)
その輝きで愚痴や病を返させぬと思ふようになったから。
目力が強くてこの世の女性には思ふでない御用ひがあったから。

かぐや姫の正体は何だった？

(3) 火星人 ② ティン・ランドの人 ③ ママック星の人
当時の人々によつて「月の世界」「月の子」と呼ばれてゐた。

(4) 「ウツが響いていへ、みなさんでいへ」ともてゐるという、
力のあつた不死の仙人が暮らしているところのこと。つまり、
仙人にあつた不死の薬を作つていて、欲望も感情もない存在になり、
人の命のあることを不思議に思ふ人があつて、直接見てはいけなかつた。

「竹取物語」のあらすじ

山口 月の世界から地上の世界にやこまれたかぐや姫は政府の養子となり大工の娘となる。

出来 その後、かぐや姫の美しさを求めたやつきたる皇太子と身約のある五人の貴公子、男爵の身分別々をめぐり争ひあつてしまひつゝ終つてしまふ。

おむす 満月の夜、月の世界から運えられて来た月使たちといくづか、月の世界に帰つていく物語。

2 かぐや姫を通して、作者がこの物語の中に隠した秘密のメッセージを考えてみよう。中心人物を、かぐや姫にしたのはどうしてだうかな？

※ □ の設問の答えは必ずしも違ひないが、自分なりに考えてみよう。

学年シートあり
蓬萊の玉の枝―^{（付）}竹取物語―から
作者不詳

一年 組 番 氏名

ステップ6 子どもたち…なぜ、中心人物を、かや腰にしたのどう？

七 まとめにかえて

1 「竹取物語」の魅力とテキスト形式、現代性

「竹取物語」は地名起源説話や白鳥処女説話、古代中国伝来の類似した作品等の影響を受け、古代物語の枠組みをもちつつ、優れた構成と語り・描写等で近現代小説のように鮮やかに私達の生きる課題を読者に浮かび上がらせる作品の一つである(詳細は、佐藤洋一・有田弘樹「伝統文化(古典)における『習得・活用』の授業開発—『竹取物語』のテキスト形式をめぐって—」『愛知教育大学研究報告第61輯』2012年、同「生き方・判断力を鍛える『伝統的な言語文化』授業開発—『平家物語』(中学2年)の『習得・活用(読書レポート)』を例に—」『同第62輯』2013年、佐藤洋一・室賀美紀「昔話の魅力を生かす『伝統的な言語文化』の授業開発」『愛知教育大学教育創造機構紀要第5号』2015年等、注4・5)。

「竹取物語」に限らないが、伝統的な言語文化といわれる古典作品や伝承古典芸能(歌舞伎や狂言、落語、文楽等)の多くは、そのメッセージやテキスト形式の今日的な魅力、普遍性・批評性により時代を超えて継承され、現代でも映画化やアニメーション化等、至るところに生き続けている。これ等は、その様式(テキスト形式)や言葉がもつ文化的価値等を通して、私達の発想や感受性、ものの見方・考え方等の根源を構成してきているといえることができるだろう。

2 意図を超えて実現されている価値の発見・解釈

資質・能力を育成する国語科学習では、物語の創作(小2～)、詩歌の鑑賞と創作(小3～)、論理的な報告・レポート(小4～)、随筆の解釈と創作(小5～)、鑑賞・批評(中学1～3年)等の多様なテキスト表現力が求められている(これ等は現行の学習指導要領、次期学習指導要領でも継続)。さらに高校国語科では、現代文や小説、説話や俳句・俳文、紀行、軍記物語、王朝文学(随筆や物語、日記等)等を読み、「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成と深化」「共有」等が求められてくる。これは外国語学習(英語教育)での読む・書く(話す・聞く)活動でも同様である。

このような活用・探究的な学習で、特に課題となってくるものの一つは、正しく読み取る・理解すること(習得)と解釈・鑑賞・批評といった創造的・批評的な学びの構築の相互関係、指導・支援の在り方である。私見では、真の批評とは作者の意図(モチーフや主題等)を超えて実現されている作品の魅力の発見、それを自分の立場・現代の視点や課題意識から関連づけて論証し(良さや価値ある観点でつながる)、説得力をもって他者に伝える(論証できる)ことといえることができる。新たな価値の発見(解釈)と論証、それ等膨大な蓄積が「古典なるもの、を残してきたといえるだろう(注5)。創造的・批評的な学びの評価は、「各教科等を学ぶ本質的な意義」、「見方・考え方」、汎用性

やメタ認知能力との関係や構造を明確にする必要がある。また、パフォーマンス課題・評価、ルーブリックの在り方等の妥当性・本質性等の検討等、資質・能力育成の三観点からの教材・実践開発、検証と改善、批評的提言等も含め、今後の緊急の課題と私には思われる。

〈付 記〉

本稿は、佐藤洋一・研究発表「資質・能力(コンピテンシー)を深める国語科言語能力・テキスト形式」(第132回全国大学国語教育学会・岩手大会)2017年5月27日(岩手大学学生センターA棟)、及び有田弘樹による研究実践発表「生きて働く言葉の力を育み、深く学びあう授業(『竹取物語』)」平成29年度安城市教育研究会一斉研修会(2017年6月15日、安城市立安城西中学校)での発表(実践)を骨子としている。

〈注記・主要文献〉

- 1 C・ファデル他著、関口他編訳『21世紀の学習者と教育の4つの次元』北大路書房(2016年)、国立教育政策研究所『資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書2—諸外国の教育課程と学修活動—』(2016年)、奈須正裕『「資質・能力」を学びのメカニズム』東洋館出版社(2017年)、無藤隆『新しい教育課程におけるアクティブな学びと教師力・学校力』図書文化(2017年)等。
- 2 東京学芸大学・次世代教育研究推進機構(NGE)シンポジウム(2017年3月11日、東京国際フォーラム)等。
- 3 文部科学省『小・中学校学習指導要領 国語科「解説」』、『小・中学校学習指導要領 総則「解説」』(2017年6月)、菊池英慈「新しい教育の動向—国語科における改訂の方向性—」『教育時報No. 119』文溪堂(2017年9月)等、『平成29年度学習指導要領改訂のポイント 小学校・中学校(国語)』明治図書(2017年)、大杉昭英解説『平成28年版 中央教育審議会答申全文』同(同年)等。
- 4 佐藤洋一「批評的・創造的な授業開発—テキスト形式に着目した21世紀学習—」(第127回全国大学国語教育学会・研究発表論文集2014年)、同「鑑賞・批評・評価する学力と国語科教材開発」(第26回日本教材学会研究発表大会・研究発表論文集2014年)、有田弘樹「随筆教材の『テキスト形式』に着目した教材研究への視点」(第125回全国大学国語教育学会・研究発表論文集2011年)、佐藤洋一・有田弘樹「随筆教材のテキスト形式を生かす『習得・活用』『批評』」(『愛知教育大学研究報告第63輯』2014年)等。
- 5 『21世紀型教育研究—新たな学びを創る(紀要第2号)』(会長・佐藤洋一編著2017年)、佐藤洋一・森和久編著『子どもが楽しく「生き方と洞察力」を育む授業提案・報告」(同年)、佐藤洋一・左近妙子「『深い人間的な学び』を創造する伝記教材の授業」『愛知教育大学研究報告第66輯』(同)、佐藤洋一・有田弘樹「創造的・論理的思考」を鍛える21世紀型教育—「故郷」におけるパフォーマンス評価・メタ認知—」『愛知教育大学キャリアセンター紀要第2号』(同)等。

(2017年9月25日受理)